

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年11月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670201062
法人名	社会福祉法人 祥健会
事業所名	グループホームとうごう苑
所在地	鹿児島県薩摩川内市東郷町斧渕2636番地1 (電話) 0996-21-6551
自己評価作成日	平成22年9月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/informationPublic.do?JCD=4670201062&amp;SCD=320">http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/informationPublic.do?JCD=4670201062&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年10月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「住みなれた地域の中 明るい笑顔で 心のこもったふれあいと その人らしさを大切にします」の理念の下、入居者様もスタッフもご家族も、毎日を笑顔でいきいきと居心地よく過ごせるよう取り組んでいます。単調になりがちな日々の生活の中、花見、ドライブ、夏祭り、そーめん流し、敬老会、一日遠足、クリスマス会などを企画し、地域のボランティアやご家族の協力をもらい、少しでも、外出し、家族や地域の方との思い出を作っていたけよう取り組んでいます。また、防災にも力を入れ、毎月の入居者様を含めた避難訓練、年一度の地域の方々も含めた夜間避難訓練など実施しています。その他、資格取得を目指すと共に、各種研修会に参加するなど、スタッフ一同、協力しながら、サービスの質の向上のため、毎日頑張っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域医療に携わってきた医師である理事長が毎週往診を行い、利用者の健康管理に努めている。また、管理者と職員との仲が良く、細かいことも良く話し合い、アイデアや意見を言いやすい雰囲気を保ち、常に業務の見直しを行っている。職員は、「住みなれた地域の中、明るい笑顔で、心のこもったふれあいとその人らしさを大切にします」という理念を常に意識しながら業務に取り組み、利用者とその家族が喜びや生きがいを感じられるような生活を支援している。利用者の望みを出来るだけ可能に出来るように、勤務調整を行い、利用者の生活を支援している。また、いきいきサロンや、地域の行事、清掃活動に積極的に参加し、利用者の地域とのつながりを大切に、地域に根差した福祉サービスを提供している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、家庭的な雰囲気と明るい笑顔を大切にし、心のこもったふれあいで接しながら、利用者を支える理念をつくり、実践している。	職員は、朝夕の引き継ぎの際に理念を唱和し、理念を意識付け、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、朝夕の挨拶に始まり、自治会大掃除や「いきいきサロン」、夏祭りや学校行事に参加し、日常的に交流している。	「いきいきサロン」や、自治会の清掃活動、地域行事などに参加するなど利用者の地域とのつながりを大切にしている。また、ボランティアや地域の福祉関係の高校の実習生を受け入れ、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	いきいきサロンや夏祭り等に、入居者と共に出かけることにより、地域の方に、認知症の方の理解や支援の方法を学んでいただいている。また、ボランティアや実習生の受け入れにより、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回定期的に開催し、利用者状況や運営、活動実績などを報告するほか、避難訓練やホーム周りの環境整備などについて相談し、助言や協力をいただいている。	2ヶ月に1回開催され、利用者の状況や運営の報告を行い、参加者に認知症についての理解を深めてもらい、助言や協力をいただき、サービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進委員会やホーム行事に参加していただくほか、福祉事業などで分からないことやボランティア依頼など、電話や訪問して、日頃から密に連携し、協力をもらっている。	身体障害者手帳の交付に関する相談や、福祉サービス利用についての相談、事務手続き等、日頃から市町村との連絡や連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する研修会を実施し、スタッフ全員が理解している。実際の業務の中では、常に身体拘束にならないか、スタッフ同士話し合い、代替ケアがないか検討して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会や事例検討会等を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。利用者が外出しそうな時は、一緒に付き添い見守るなど安全面に配慮している。また、地域の協力を得ながら利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等について研修会を実施し、学ぶ機会を持っている。業務の中でも、スタッフ同士、常に意識し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度の研修会を実施し、入居者個々に必要性がある場合は、関係者と協力し、活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、解約については、十分に時間を取り、各項目丁寧に説明している。また、不安や疑問点がないか確認しながら、納得を得た上で、契約されるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進委員会に入居者やご家族に出席していただき、意見を出してもらったり、面会簿に、相談や意見、要望、苦情などを記入していただく工夫をしている。また、外部の相談窓口の案内や第三者委員の紹介を行っている。</p>	<p>重要事項説明書に相談窓口を記載している。また、面会簿に相談や苦情などを記載して頂くようにし、日頃から家族が意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。2カ月に1回運営推進会議を開催し、家族の意見を反映出来るようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>朝夕のミーティングや月一回のスタッフ会議、様々な研修会などで、スタッフの意見や提案を聞く機会を持ち、出された意見などは、管理者とスタッフ全員で検討し、運営に反映させている。</p>	<p>朝夕のミーティングや月1回のスタッフ会議の時にスタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員の意見や希望を取り入れながら、体調に配慮し勤務調整や、勤務内容の見直しなどを行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は、スタッフ一人ひとりの生活環境や仕事に対する思いや希望、日々の努力や成果を常に把握し、働きやすく、やりがいや向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ一人ひとりの希望を入れた、年間の研修計画を作成し、できるだけ多くの研修を受けることができ、また、資格取得のための対策講座に参加できるようにしたり、スタッフ会議で、研修報告を行い、資料を閲覧できるよう配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者がGH連絡協議会の役員であり、研修会や同業者の交流会の企画をし、多くのスタッフが参加して情報交換、ネットワークづくりに努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時に、ご本人に面会し、生活の様子や身体状況、不安なことや要望などを伺い、また、顔を覚えてもらうなどして、安心していただくよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に、現在のご本人やご家族の状況、不安や要望、困っていることなどを伺い、ホームでの生活や支援できること、ご家族に協力していただくことなどをお話しし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、ご本人とご家族の話をお聞きし、何を求めているか見極め、他のサービスを含めた総合的な支援が出来ないか検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、共に支え合うという事を常に心に留め、スタッフと利用者、利用者同士、家族と利用者、地域の方やボランティアと利用者、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも、自宅にいらっしゃる時と同様に、利用者と家族との絆が途切れないように、面会や行事参加の時など、共に支えているという事をお話し、意識していただくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のいきいきサロンや行事に参加し、また、買い物に行くなどして、慣れ親しんだ場所へ出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	地域の温泉や物産館に買い物に行ったり、いきいきサロンや行事に参加することにより、馴染みの人や場所の関係性継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、コミュニケーションを取り、意思疎通が難しい方も、孤立しないようスタッフが関わり、社会性を保ち、支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に訪問されたり、必要に応じて、相談に乗るなど、これまでの関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を、直接ご本人に聞いたり、日々の生活の中の言動や表情から汲み取ったり、意思疎通が難しい方は、ご家族から情報をもらい、思いや意志を把握するようにしている。	利用開始前に本人や家族からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメント表などに記載し、介護計画に活かしている。また、日々の関わりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などで職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込時や入居時に、ご本人やご家族に、これまでの生活歴やサービス利用の経緯を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、毎日の暮らしの中で、心身状況や有する能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がどう暮らしたいか、ご家族はどのような暮らし方を望まれているかをご本人、ご家族、ケアマネ、スタッフ、主治医等で、話し合い、それぞれの意見を反映してアセスメントやモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとに担当制を設け、利用者について細かい把握に努めている。毎月、モニタリングを行い、ミーティングで気になる方についての検討している。また、3ヶ月ごとに評価を行い、計画の見直しが必要な場合は担当者会議を開いて再度計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、食事の量や排泄状況、バイタルや日常の変化や気づきなどを記入し、スタッフ間で情報を共有し、ケアや計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や希望に応じ、急な外出支援や通院介助など、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるよう、地域のスーパーや訪問美容、民生委員やボランティア、保健センターの保健師や歯科衛生士、緊急避難時の消防局や地域協力者など、地域資源と協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の、定期的往診のほか、急な体調不良時も、すぐに往診してもらえるなど、安心して適切な医療が受けられている。また、入居前からの専門医の受診が必要な入居者は、継続して適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の意向に沿って、入所前から利用しているかかりつけ医の受診など継続医療を支援している。また、理事長である院長が毎週訪問し、健康管理を行っており、家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、日常の関わりの中で、些細な体調変化を見逃さないよう早期発見に努めている。また、変化に気づいた時は、協力医療機関の看護師に報告し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、必ずスタッフが付き添い、医療機関と情報交換を行っている。また、入院中も、面会に行くなどして安心して治療ができ、医療機関の相談室等とも連携を取り、早期退院ができるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルについてのアンケートをいただいている。また、重度化されたり、終末期が近い場合など、状態が変化する度にご家族や主治医と話し合う機会を作り、方針を共有しながら支援している。	入居時にアンケートを行い、利用者や家族の希望を聞くようにしている。重度化や看取りに対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらう体制をつくっている。また、状態に応じて本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、応急手当や蘇生法の訓練を定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練や防災教育、災害時対応の研修会を行っている。年一回の夜間避難訓練には、消防署や地域支援協力者の方々にも参加していただいている。	毎月、避難訓練や防災教育、災害時対応の研修会を行い、消防訓練には、地域住民の協力をお願いしている。また、非常通報装置や災害時の飲用水や食料も備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、優しく思いやりを持った声かけをし、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。また、個人情報の取り扱いにも十分注意している。	玄関に個人情報の保護方針を掲示し、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについて、ミーティングで話し合いながら個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせた声かけを行い、「はい」「いいえ」で答えられ、自己決定しやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日の体調に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や好みに合わせて支援している。また、外出時や行事の時には、特別にお化粧されたり、マニキュアをつけたりして、お洒落を楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や、昔懐かしい物、行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。また、手伝いができる方には、一緒に調理や片付けをしていただいている。	菜園で野菜を作り旬の食材を利用して、下ごしらえや下膳を一緒に行い、一人ひとりの意向や体調に応じて盛り付けや量に配慮している。職員も一緒に会話を楽しみながらの食事風景である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量や好み、食事の形態など、状態や力、習慣、病歴などを考え、工夫しながら、十分な栄養が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの声かけや介助を行っている。また、入れ歯の手入れや歯磨きの仕方など、歯科衛生士の講習を受けるなどして、取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレ誘導、声かけを行い、トイレでの排泄を促し、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの生活リズムや排泄パターンに合わせて、トイレ誘導やさりげなく声をかけるなどの配慮をしている。ベッドや居室の家具の配置を工夫し、安全な立ち上がりや自力歩行を目指すことも排泄の自立支援として、取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食べ物、水分をゼリーで固めるなどの工夫や、適度の運動の声かけや介助など、一人ひとりに合わせた便秘の予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの入浴の好みに合わせ、スタッフとの会話を楽しみながら、ゆっくりと入浴されるよう支援している。	基本的な入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望や状態に応じて臨機応変に対応している。利用者の希望により近隣の温泉に行くなど、入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが落ち着かれる場所を作り、好きな時に、休息したり、安心して気持ち良く眠られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を作成し、スタッフは、薬の目的、副作用、用法や用量など理解している。また、薬の変更時には、口頭、連絡帳に記載して確認し、服薬時は、必ず2人で確認してから与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を生かせるよう役割を持っていただいている。また、利用者の希望を聞きながら、毎月行事を計画し、気分転換できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日のちょっとした散歩や買い物支援、また、花見や遠足、ソーメン流しやバイキングといった外食など、家族やボランティアの協力をもらいながら、出かけられるよう支援している。	利用者の希望に応じて庭の掃除をしたり、買い物や散歩をするなどその人らしい自由な暮らしを支援している。また、車いすの方も外食や散歩など外出の機会を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	一人ひとりの能力に合わせ、お金を所持したり、買い物で使ったりされるよう支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	ご本人の希望により、自由に電話したり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節感のある飾り付けや花を飾ったり、観葉植物を置くなどしている。また、強い光は、遮光カーテンなどで和らげ、空調や温度などにも注意し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	広々とした食堂などの共有空間には、花が飾られ、掘りこたつやテーブルを囲み利用者が思い思いにくつろぐ姿がある。また、坪庭があり、季節を感じられ家庭的で落ち着ける雰囲気である。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	リビングのソファや和室の掘こたつなど、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や寝具を持ち込まれ、好みの部屋にされ、ご本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室の窓は広く、床は畳とフローリングの両方を取り入れ、本人の使い慣れた家具や寝具を持ち込んでもらい、個性にあった本人が居心地よく過ごせる部屋作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝夕の引き継ぎの際、管理者と職員は、理念を共有し、意識づけしていくために、唱和し、確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	学校、地域の行事などに参加して、地域の方々との交流に参加している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	管理者は、地域の研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れやボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で、取り上げられた検討事項について、その経過を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者と日頃から連携を取り、事業の運営、現場の実態を共有し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有意識を図っている。また、利用者が外出しそうな時は、止めるのではなく、さりげなく声をかけ、一緒についていくなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で、高齢者虐待防止について学び、ミーティング等を実施し、日々の業務の中で虐待になっていないか、見過ごされていることがないか確認し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度については、研修会を行うなどして理解し、個々に必要性がある場合は、関係者に相談するなどして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居時の対応など、丁寧に分かりやすく説明し、納得を得た上で、手続きがなされるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族から出された意見や要望は、スタッフ会議で話し合い反映させている。また、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議で話し合う場が設けられ、スタッフの要望や意見を聞くようにしている。また、利用者との日常的な関わりの中で生まれるスタッフ気づきやアイデアを運営に取り入れている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフのやりがいなど、向上心を持てる職場環境の条件について具体的に配慮や工夫をしている。また、資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修には、交替で、なるべく多くのスタッフが受講できるようにしている。その際、研修記録を作成し、研修報告を行い、いつでも職員が目を通し、学べるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流の場が設けられ、お互いコミュニケーションを図り、情報交換が行われている。連絡会などがあり、スタッフ研修を行い、質の向上に励んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するよう努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようと努めている。また、サービスの利用を開始する段階で、ゆっくり話を聞き、その思いを受け止め、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が求めているものを理解し、事業所としてどのようなことができるか事前に話し合いをしている。また、ご家族が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞き理解し、信頼関係を築いていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で、ご本人とご家族が、今必要としている支援を見極め、また他のサービスも利用できるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有して、日々の生活の中で、共に支え合い穏やかに生活できるよう配慮している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの友人や知人にホームに訪問して頂いたり、自宅の様子を見に行かれるなどして、継続的な交流が出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないよう声かけ、コミュニケーションを取り、利用者同士、スタッフも間に入り、会話をもち、利用者同士の関係がスムーズにいくように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人、ご家族に気軽に来ていただけるよう、声かけしたり、また、ご家族からの相談に乗ったりして、これまでの関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを日々の行動や表情、言葉などから、汲み取り把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から、情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族に、これまでの生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境を伝えてもらい、サービス利用の経過等の把握に努めて、これからのサービスに配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のできる力を、毎日の生活の中で発見していくことに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、日々の様子や本人の言葉、身体的状況（食事、排泄、入浴等）を記録し、職員間で情報を共有し、それを基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々々の要望に応じ、柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるよう、民生委員やボランティア、地域の機関へ呼びかけ、協力を得ながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行ったり、往診に来ていただいたりして、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中で、体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化等に気づいた時は、協力医療機関の看護師に報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、医療機関と情報交換を行い、スタッフも見舞いに行くなどして、ご家族と共に、早期退院ができるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人やご家族、主治医と早い段階より話し合い、安心して納得した最後が迎えられるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、応急手当や蘇生法等の研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災の避難訓練を実施し、年一回消防署や地域の方々の協力を得て、夜間の避難訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、優しく思いやりを持った声かけ、対応を行い、誇りやプライバシーを損なわないよう日々関わっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、ご本人が答えやすく、選びやすいような働きかけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、また、行事日などは、お化粧をするなどお洒落を楽しんでもらえるよう支援している。理美容は、出張サービスを利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を中心に、好みを聞き、メニューを考え、調理し、食事の準備や片付けのできる方には手伝っていただき、スタッフと利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるような雰囲気作りも大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて(ミキサー食、きざみ食)支援し、食事量や水分摂取量、食事内容等、毎日記録している。また、むせたり、飲み込みが悪くなった利用者には、とろみ剤を使うなどして、食事の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの声かけや介助を行っている。入れ歯の管理や手入れを確実にできるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、トイレ誘導、声かけを行い、トイレでの排泄を促し、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、水分補給、適度な運動により、自然排便を促す工夫を行っている。便秘の方には、牛乳やヨーグルト等、十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供している。また、排便チェック表を作成し、記録している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ゆっくり寛がれ、入浴を楽しんでいただいている。時々、入浴を拒まれる方には、言葉かけや対応に工夫し、入浴の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休息したり、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。寝付けない時には、温かい飲み物を飲んでいただいたり、おしゃべりをするなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を作成し、薬の変更時には、口頭、連絡帳に記載して確認し、スタッフは状況を把握している。服薬時は、スタッフ2名で、必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの能力を活かした役割（野菜の下ごしらえ、ごみ箱作り、台所の手伝い、洗濯物たたみ等）で、張り合いのある日々を過ごされるよう支援している。また、外食や地域の行事参加等の楽しみ事を利用者と相談しながら行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日のご本人の気分に合わせて、苑庭を散歩されたり、介助の必要な方は、体調を考慮しながら、散歩を楽しんでいただいている。また、年数回の外出には、ご家族や地域の人々と協力しながら、出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、自分でお金を所持され、買い物などでお金を使えるよう支援している。お金を所持することで、安心感や満足感に配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の希望に応じ、電話をされたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい雰囲気を持つよう季節の花を飾ったり、季節感を取り入れた飾り付けなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビやソファがあり、和室には、こたつがあり、共同空間の中で、ひとりになれたり、気の合った利用者同士話をされたりと寛がれる場所がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使いなれた寝具、家具、テレビなどを持ち込まれ、そのまま使っていただき、家族の写真や思い出の品々を置かれ、ご本人が居心地よく過ごされるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮して、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1	ほぼ全ての利用者が
		○	2	利用者の2/3くらいが
			3	利用者の1/3くらいが
			4	ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1	ほぼ全ての利用者が
			2	利用者の2/3くらいが
			3	利用者の1/3くらいが
			4	ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1	ほぼ全ての家族と
			2	家族の2/3くらいと
			3	家族の1/3くらいと
			4	ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1	ほぼ毎日のように
		○	2	数日に1回程度ある
			3	たまに
			4	ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1	大いに増えている
		○	2	少しずつ増えている
			3	あまり増えていない
			4	全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1	ほぼ全ての職員が
		○	2	職員の2/3くらいが
			3	職員の1/3くらいが
			4	ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1	ほぼ全ての利用者が
			2	利用者の2/3くらいが
			3	利用者の1/3くらいが
			4	ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1	ほぼ全ての家族等が
			2	家族等の2/3くらいが
			3	家族等の1/3くらいが
			4	ほとんどいない